

名城大学 理工学部
材料機能工学科

Department of Materials Science and Engineering

新材料が
未来を切り拓く

私たちの社会を支える“材料技術”

～最先端技術の結集『スマートフォン』～

スマートフォンには、通話機能に加え、メール・カメラ・音楽・ナビゲーション・ゲーム・テレビ・電子マネー機能などが集約され、私たちの生活を便利にしています。

このスマートフォンの高性能化は“材料技術”によって成し遂げられました。

20万色以上の色合いと高解像度で映し出される綺麗な液晶画面には、名城大学 理工学部 材料機能工学科の研究グループが創出してきた発光ダイオードの技術が大いに貢献しています。

発光ダイオードの技術によって極めて美しい画面を、また、半導体技術によって、データ通信速度の飛躍的な高速化を実現することができました。

さらには、フラッシュメモリ等の導入、プラスチック材料の高性能化やリチウム電池に代表されるバッテリー技術によって、超小型・軽量化を可能にしました。こうした“材料技術”の発展により、最先端技術が結集されて『スマートフォン』は実現されたのです。

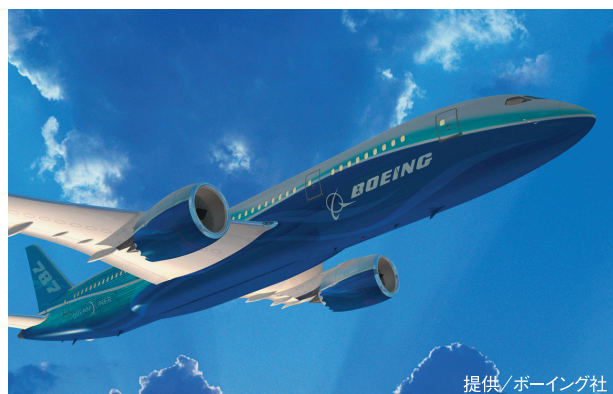


スマートフォン以外にも、パソコン、自動車、光通信、ソーラー発電システム、航空機、ロケットなどのハイテク機器分野、IT・情報産業分野、社会システム基盤・環境分野、エネルギー関連分野や医療・生命工学分野など様々な分野においても、“材料技術”は多大な貢献をしています。

今後、さらに社会が環境と調和して成長していくためには、“材料技術”の発展と『新材料』の創造が必要不可欠なものとなります。

このような社会の要望に応えるため、名城大学 理工学部 材料機能工学科は平成12年に設立され、“材料開発に必要な知識”および“創造への挑戦心”を持った人材の育成に、教育と研究の両面から尽力しています。

さあ、あなたも未来の社会を支える、『新材料』を創造してみませんか？



材料機能工学科の紹介

材料機能工学科では、19世紀以降の世界的な経済発展を支えた『鉄鋼』、20世紀のコンピュータ革命・IT革命における『半導体』、そして、21世紀に入って注目が集まっている『ナノテクノロジー』をはじめとした未来を切り開く『新材料』の研究開発を行なっています。研究対象は、『ナノテクノロジー材料』、『半導体材料』、『超伝導材料』、『機能性材料』、『機械材料』、『生体材料』など、これからの社会に大きな貢献が期待される材料です。本学科では、学生の皆さんが学力の基礎を築き、さらにそれぞれの個性を伸ばして、明るい未来を開拓する人となるようにカリキュラムを作成し、学生の皆さんを最大限サポートしています。さらに高度な知識・技術を修得することができる大学院修士課程材料機能工学専攻が設置されています。

Admission Policy アドミッションポリシー

名城大学 理工学部 材料機能工学科では下記のような学生の皆さんを大募集しています。

- 『自動車』や『飛行機』の性能を向上させたい
- 『電子(半導体)機器』に興味がある
- “革新的コンピュータ”・“通信技術”などを開発したい
- “ナノテクノロジー”に興味がある
- “エネルギー”・“環境問題”に興味がある
- “医療材料”に興味がある
- “新材料”・“新技術”に興味がある
- “材料分析・解析”に興味がある
- 『産業技術』へ貢献したい
- “科学技術”に興味がある
- やる気・前向き・元気がある・野心がある・夢がある

1つでも該当すれば、名城大学 理工学部 材料機能工学科に是非入学して、産業界へ貢献できる人材を目指してください。

教育目標とカリキュラム構成

本学科のカリキュラムは、学生の皆さんが“材料開発のスペシャリスト”にふさわしい『自然科学・数学』『物質の性質』『電気・電子』『機械』『社会人・国際人として必要な教養』などの知識を幅広く、学べるよう構成されています。また知識だけでなく、その『応用力』や『創造への挑戦』を実践するために、学生実験や卒業研究などの科目を配置しています。また、講義内容と実験実習内容をリンクさせることによって、皆さんが体験して理解する教育を実践しています。

教育目標

- 科学者・技術者としての倫理の修得
- 科学と人間、材料と環境との関わり方の理解
- コミュニケーション・プレゼンテーション能力の修得
- およびコンピュータの基礎能力の修得
- 数学および自然科学の基礎知識の修得
- 材料の構造・性質に関する基本の理解
- 材料のプロセスに関する基本の理解
- 材料の機能および設計・利用に関する基本の理解
- 実験の計画・実行およびデータ解析の能力
- 自然科学の基礎能力、工学基礎および自主的に学習できる能力

本学科を支える著名な教授陣

その第一筋に打ち込み、文化勲章、文化功労者に選ばれた各界の第一人者たち。栄誉を喜び、支えてくれた家族や周囲に感謝しながら、さらなる飛躍を誓った。

飯島氏に文化勲章

飯島澄男 氏(1927年11月10日生まれ)は、東京府立第一高等学校(現・東京大学)卒業。1950年、東京大学工学部機械工学科卒業。1951年、同大学工学部機械工学科助教授。1953年、同大学工学部機械工学科教授。1957年、同大学工学部機械工学科長。1961年、同大学工学部機械工学科長。1965年、同大学工学部機械工学科長。1969年、同大学工学部機械工学科長。1973年、同大学工学部機械工学科長。1977年、同大学工学部機械工学科長。1981年、同大学工学部機械工学科長。1985年、同大学工学部機械工学科長。1989年、同大学工学部機械工学科長。1993年、同大学工学部機械工学科長。1997年、同大学工学部機械工学科長。2001年、同大学工学部機械工学科長。2005年、同大学工学部機械工学科長。2009年、同大学工学部機械工学科長。2013年、同大学工学部機械工学科長。2017年、同大学工学部機械工学科長。2021年、同大学工学部機械工学科長。2025年、同大学工学部機械工学科長。

次世代の新材料発見

飯島澄男 氏(1927年11月10日生まれ)は、東京府立第一高等学校(現・東京大学)卒業。1950年、東京大学工学部機械工学科卒業。1951年、同大学工学部機械工学科助教授。1953年、同大学工学部機械工学科教授。1957年、同大学工学部機械工学科長。1961年、同大学工学部機械工学科長。1965年、同大学工学部機械工学科長。1969年、同大学工学部機械工学科長。1973年、同大学工学部機械工学科長。1977年、同大学工学部機械工学科長。1981年、同大学工学部機械工学科長。1985年、同大学工学部機械工学科長。1989年、同大学工学部機械工学科長。1993年、同大学工学部機械工学科長。1997年、同大学工学部機械工学科長。2001年、同大学工学部機械工学科長。2005年、同大学工学部機械工学科長。2009年、同大学工学部機械工学科長。2013年、同大学工学部機械工学科長。2017年、同大学工学部機械工学科長。2021年、同大学工学部機械工学科長。2025年、同大学工学部機械工学科長。

飯島教授
中日新聞
(2009年10月28日)
掲載記事より

赤崎勇氏に文化勲章

78歳 青色LED開発

赤崎勇 氏(1942年11月10日生まれ)は、東京府立第一高等学校(現・東京大学)卒業。1964年、東京大学工学部機械工学科卒業。1965年、同大学工学部機械工学科助教授。1967年、同大学工学部機械工学科教授。1971年、同大学工学部機械工学科長。1975年、同大学工学部機械工学科長。1979年、同大学工学部機械工学科長。1983年、同大学工学部機械工学科長。1987年、同大学工学部機械工学科長。1991年、同大学工学部機械工学科長。1995年、同大学工学部機械工学科長。1999年、同大学工学部機械工学科長。2003年、同大学工学部機械工学科長。2007年、同大学工学部機械工学科長。2011年、同大学工学部機械工学科長。2015年、同大学工学部機械工学科長。2019年、同大学工学部機械工学科長。2023年、同大学工学部機械工学科長。2027年、同大学工学部機械工学科長。

人に恵まれた

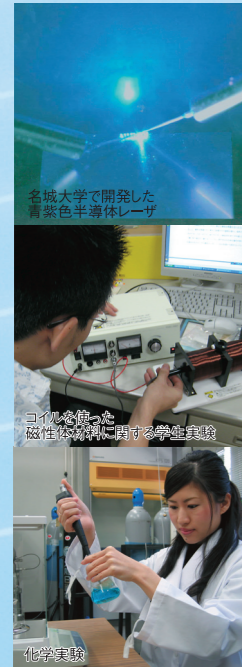
赤崎勇 氏(1942年11月10日生まれ)は、東京府立第一高等学校(現・東京大学)卒業。1964年、東京大学工学部機械工学科卒業。1965年、同大学工学部機械工学科助教授。1967年、同大学工学部機械工学科教授。1971年、同大学工学部機械工学科長。1975年、同大学工学部機械工学科長。1979年、同大学工学部機械工学科長。1983年、同大学工学部機械工学科長。1987年、同大学工学部機械工学科長。1991年、同大学工学部機械工学科長。1995年、同大学工学部機械工学科長。1999年、同大学工学部機械工学科長。2003年、同大学工学部機械工学科長。2007年、同大学工学部機械工学科長。2011年、同大学工学部機械工学科長。2015年、同大学工学部機械工学科長。2019年、同大学工学部機械工学科長。2023年、同大学工学部機械工学科長。2027年、同大学工学部機械工学科長。

赤崎教授
南日本新聞
(2011年10月26日)
掲載記事より

名城大学理工学部 材料機能工学科

—“材料機能工学科”では幅広い知識の習得とハイレベルな研究を通じて創造への挑戦心を養います—

自然科学・数学に関する知識



自然科学(物理・化学など)・数学を学ぶことによって、材料開発に必要な基礎学力を養います

- 微分積分I・II
- 線形代数I・II
- 物理学I・II
- 物理学演習
- 物理学実験I・II
- 化学I・II
- 化学実験I・II
- 数学基礎演習I・II
- 物理学基礎演習I・II
- 化学基礎演習I・II
- 応用数学I~III
- 電磁気学I・IIおよび演習
- 工業力学
- 量子力学I・IIおよび演習
- 熱力学
- 統計力学

1年生後期からは専門科目を学ぶための基礎的な科目の勉強が始まります

1年次

基礎科目
(数学・物理・化学・英語)
教養科目
理工学概論

1年生では高校で学んだ数学・物理・化学・英語などをさらに深めるための基礎科目・教養科目を中心に勉強します



導入教育としてフレッシュマンセミナー・材料機能工学概論・科学技術リテラシーなどを受講します

2年生では専門を学ぶための基礎科目を学びながら後期から始まる実験実習を通して実験技術の基礎を習得していきます

2年次

専門を学ぶための基礎科目
材料機能工学実験I

3年生では、高度な専門科目を勉強したり実験実習の能力を身に付けたりします。



エレクトロニクス材料に関する知識



- 半導体材料をはじめ、電気・電子分野に関する知識を学ぶことによって、パソコン、携帯電話などの電気・電子分野の発展に貢献する力を養います
- 電気回路および演習
 - 電子回路設計・製作
 - アナログ電子回路
 - デジタル電子回路
 - 半導体デバイス
 - 量子エレクトロニクス
 - 半導体基礎論
 - 半導体工学
 - 磁性材料
 - 光・誘電工学
 - エレクトロニクス材料分析・評価法

3年次

専門を学ぶための基礎科目・専門科目
材料機能工学実験II・III

4年生では、卒業研究でオリジナル・高度な研究を実施します。



ソフトボール大会や卒業パーティーなどがあります。

機械材料・加工に関する知識

機械や加工技術の基本的な知識を学ぶことによって、自動車、飛行機などの機械分野の発展に貢献する力を養います

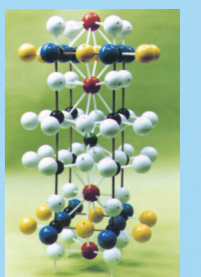
- 製図基礎
- 材料力学I・IIおよび演習
- 鉄鋼材料
- 合金材料
- 焼結材料
- 高分子材料
- 複合材料
- 材料強度学
- 結晶塑性学
- 機械加工
- 溶融加工
- 機械要素
- 機械設計・製図
- 機械材料分析・評価法



化学材料に関する知識

【応用化学科との連携講義】

- 安全工学
- 化学反応論
- 量子化学
- 高分子物性
- 電気化学
- 分析化学
- 先端技術管理



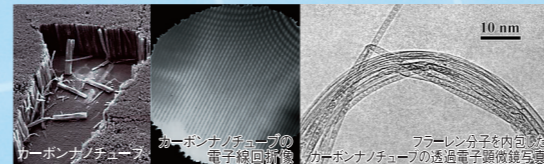
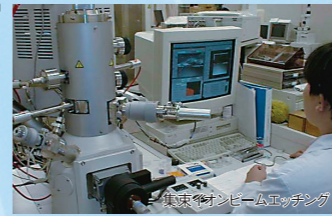
※1…教職課程科目の履修が必要

取得可能な資格	卒業とともに取得できる主な資格	■ 高等学校教諭一種免許状(理科・工業)※1
	卒業とともに受験資格が得られる主な資格	■ 中学校教諭一種免許状(理科)※1 ■ 学芸員(学芸員科目の履修が必要) ■ 技術士(補)
	卒業後実務経験で受験資格が得られる主な資格	■ 消防設備士(甲種) ■ 労働安全(衛生)コンサルタント ■ 技術士
	在学中に受験できる主な資格	■ ソフトウェア開発技術者試験

材料・物質の基礎に関する知識

物質の性質を理解することによって、材料の基本的な特徴を理解します

- 物性論I・IIおよび演習
- 結晶材料
- 結晶成長
- 真空工学
- 表面工学



応用力・創造への挑戦心



講義で学習したことを、実際に体験することによって応用力を身につけ、ハイレベルな研究を通じて“創造への挑戦心”を養います

- 材料機能工学概論
- 材料機能工学実験I~III
- 材料機能ゼミナール
- 卒業研究



プラズマを使った卒業研究の様子

4年次

卒業研究
専門科目

年間行事

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	講義期間			試験	夏季休業		講義期間			試験	春季休業	
1年次	入学式 新入生オリエンテーション	フレッシュマン セミナー	材料機能工学概論				科学技術リテラシー					
2年次	2年次ガイダンス				フレッシュマンセミナー		材料機能工学 実験I	大		大学祭	卒業 パーティー	卒業式
3年次	材料機能工学 実験2		入学式				材料機能工学 実験3	学		就職・進路指導		研究室配属
4年次	卒業研究			講義・ 学生実験		ソフトボール大会		祭	卒業研究発表会		卒業研究発表会	卒業式

名城大学DAY

社会・世界を変える新材料・材料開発

持続的な社会の発展を可能にしていくこと、それを実現するための答えは、『新材料』・『材料開発』にあります。ものづくりにおいて、環境・エネルギー問題の解決に貢献し、豊かで安心できる生活のためには機能や信頼性が高くオリジナリティに富む技術や製品の開発が求められます。

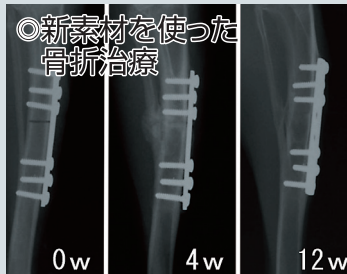
材料機能工学科では、こうした『新材料』・『材料開発』に必要な『自然科学・数学』『物質の性質』『電気・電子』『機械』に関する知識を習得し、『社会人・国際人として必要な教養』を身につけ創造への挑戦心を養います。

“材料開発”は『乗物・機械』『IT・エレクトロニクス』『ライフサイエンス』『環境エネルギー』など様々な技術への応用が期待されます。

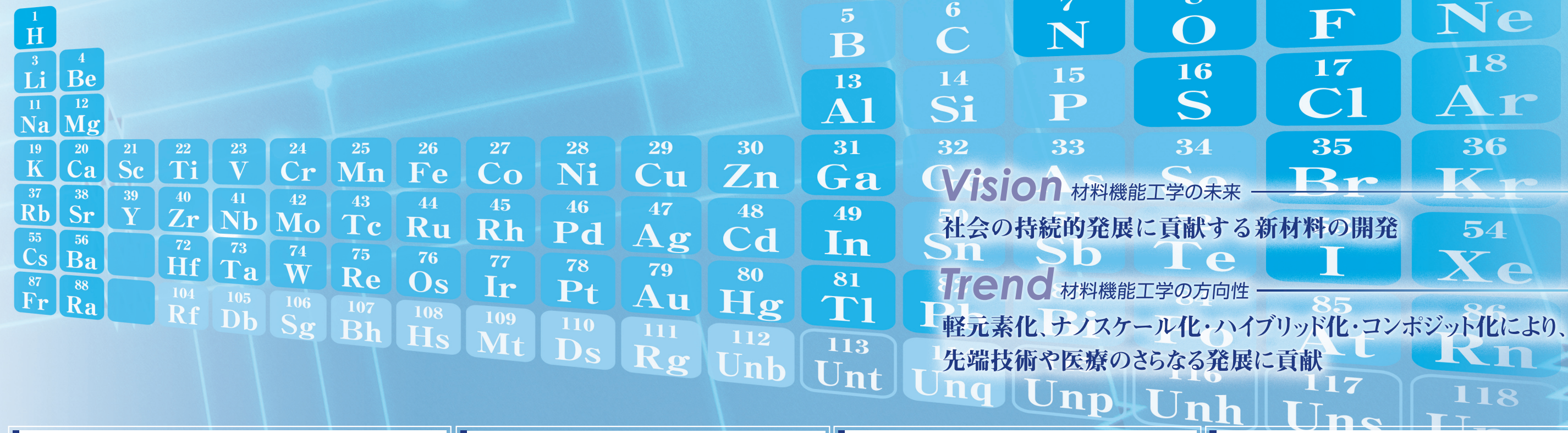


“材料技術”の応用分野

材料開発は産業の基盤であり、社会や経済を支えていく上で大切な役割を担っています。平成22年度文部科学省の科学研究費補助金は理工系分野に研究費総額の41%が配分され、そのうちの約1/3が物質・材料科学分野に割り振られていることから、今後ますます材料技術の発展が期待されます。



材料技術・応用の芽は このような研究から生まれます



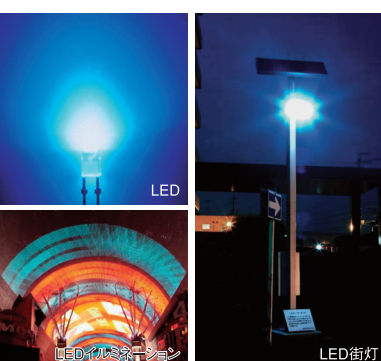
Vision 材料機能工学の未来
社会の持続的発展に貢献する新材料の開発

Trend 材料機能工学の方向性
軽元素化、ナノスケール化・ハイブリッド化・コンポジット化により、
先端技術や医療のさらなる発展に貢献

LED

白色LED照明の実現を目指します

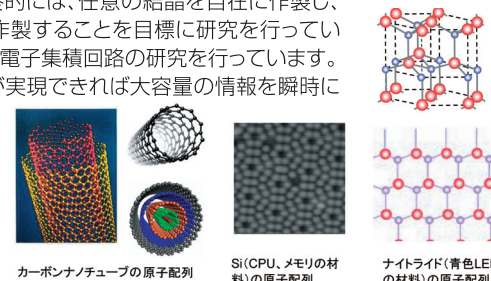
LEDは既存の白熱電球に比べ、小型・高効率・低消費電力・長寿命など非常に優れた特長を有しており、省エネ化の切り札として強く期待されています。私たちの研究室では新原理に基づく白色LEDの開発を行っています。これが実現されれば、現在の照明によって消費される電力が半分になると期待されています。また、それ以外にもレーザーディスプレイ用の緑色半導体レーザーなどの研究も行っています。



クリスタルデザイン

“鉄腕アトム”の実現を目指しています

材料の性質は、原子の配列によって大きく変わります。私たちの研究室では、ナノメートルサイズの結晶の成長やそのメカニズムの解明を行っています。最終的には、任意の結晶を自在に作製し、新しい材料を作製することを目標に研究を行っています。また、光・電子集積回路の研究を行っています。このデバイスが実現できれば大容量の情報を瞬時に処理できるため、パソコンの性能が格段に向上することが期待されます。



コンポジットマテリアル

材料を組み合わせることで新材料を創出します

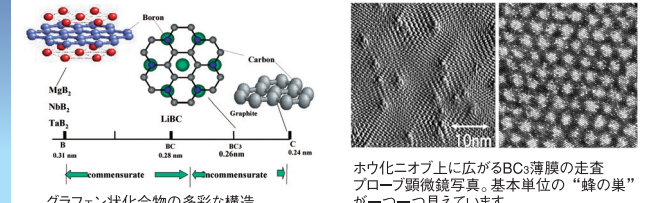
軽量で高強度の繊維強化複合材料はレーシングカーや航空機への応用がすすんでいます。いくつかの素材を組み合わせることで、欠点を補ったり、新しい機能を実現します。また表面処理や表面だけの複合化により材料強度を高めることも可能です。植物繊維とバイオプラスチックを組み合わせ、環境に優しい材料の開発が期待されています。



サーフェサイエンス

宇宙クラスの真空中で原子や分子を操るテクノロジー

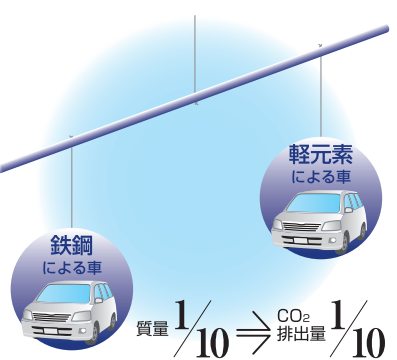
惑星間での真空は、大気圧の千兆分の1であると言われています。そのような環境では、物質の表面(サーフェス)は、不純物に汚されることなく、究極の清浄性を実現できます。私たちは、理想的なサーフェスで、原子を部品単位とする造形技術を確認し、未来のナノ材料を開発します。



カーボンナノチューブ

名城発の新材料

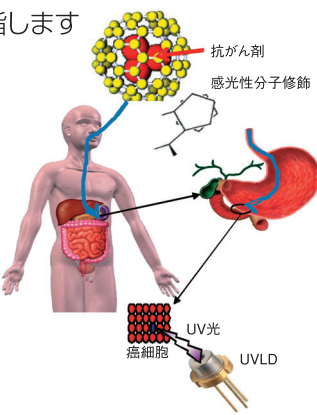
カーボンナノチューブは名城大学で発見された新材料です。この材料を使えば、鋼鉄の20倍もの強度を持ち、かつ重量が約1/10という超軽量の機械を作ることができます。また、導電性の高さと表面積の大きさを活かした新しい応用の可能性や携帯電話やパソコン、電池(燃料電池)の性能を格段に向上させることが期待されます。研究室では、このような新規炭素材料の可能性を追求し、新しい社会の構築を目指しています。



メディカルサイエンス

光線力学療法の確立を目指します

私たちの研究室では、紫外LEDの研究を行っています。既存の紫外光源は、高価・大きい・発熱が多いなど様々な問題点を有しているため、紫外LEDに対する期待は非常に高く、特に名城大学のグループに対する評価は高いです。この紫外LEDが実現できれば、光医療やレーザーメス、皮膚病の治療など新しい医療技術が実現されることが期待されています。



バイオマテリアル

医療の分野で、より豊かな生活の維持に貢献します

私たちの研究室では、生体に適合したチタン合金、リン酸カルシウムなどの材料や医療技術の研究開発を行なっています。臨床医学に貢献するとともに、医工連携による活発な研究活動を行っています。



太陽電池

究極の高効率太陽電池を目指しています

太陽電池は化石燃料を使わない新エネルギーとして世界中で盛んに研究が行われています。しかしながら、現在市販されている太陽電池は、太陽エネルギーを20%程度しか電気エネルギーに変換出来ていません。この問題点を解決するためには新素材の開拓が必要不可欠です。私たちの研究室では、ナイトライドによる太陽電池を研究しており、現在の材料の2.5倍の高効率化が可能であると期待されています。



太陽電池
発効率率 2.5倍

先輩の活躍

材料機能工学科および材料機能工学専攻の卒業生は、電子部品・半導体素子などの電気電子分野、自動車・精密機器などの機械分野、金属・ファインセラミックス・機能性複合材などの素材分野など様々な分野で活躍しています。また、職種は研究開発から設計、生産技術、品質保証など広範囲にわたり日本のものづくりを支えています。



H18 修士修了
三宅泰人さん

勤務先：電気・電子製品製造会社
所属部署：研究開発部

半導体レーザーの研究開発で結晶成長を担当しています。実験→評価→考察を繰り返し、大学の研究室とほぼ同じことをしていますが、基礎研究よりは開発に近く、事業所で量産に関する支援もしています。



H19 卒業
細田あさみさん

勤務先：医療機器製造会社
所属部署：メディカル事業部

心臓血管治療用カテーテルの開発を行っています。患者さんに直接使われる医療機器、特に常に直結するものを取り扱うため、常に患者さんの事を第一に考えています。弊社の製品で多くの患者さんの命を救ったと聞き、仕事のやりがいを感じています。



H20 卒業
早川修平さん

勤務先：愛知県立高等学校理科教員

愛知県立高等学校で授業や部活を通して生徒達と楽しく充実した時間を過ごしています。理工学部で学んだ様々な知識と経験を生かして、生徒の理科離れが少なくなるように、楽しく、興味の持てる授業を展開しようと日々工夫しています。



H18 修士修了
高橋宏寿さん

勤務先：精密・光学機器製造会社
所属部署：開発本部

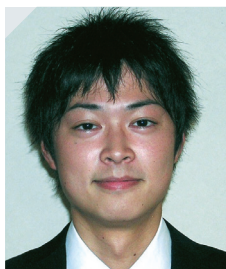
光学部材への機能性コーティングおよび表面処理技術の開発を行っています。会社内で実験、評価を行う一方で、国内外の展示会やセミナー、学会などにも参加し、新商品開発を行うための知識を深めています。



H21 博士修了
池邊由美子さん

勤務先：私立大学
大学教員

大学院博士課程を修了し、大学教員として勤務しています。学部・大学院を通して行ってきた超伝導材料に関する研究を継続・発展させるとともに、教育にも精力的に取り組んでいきたいと思いを新たにしています。



H23 卒業
松山直樹さん

勤務先：熱エネルギー機器の製造会社
所属部署：生産本部

製品の品質を極めるために、自分の知識と五感をフル活用して、「ものづくりの原点」を意識しています。エネルギー機器を通して世界中の人々の快適で豊かな生活を支えること、その一翼を担えることにやりがいを感じています。



H16 卒業
向山景子さん

勤務先：自動車関連企業
所属部署：第2ダイフェース設計室

三次元CAD(コンピュータ支援設計システム)である「CATIA」の開発メンバーとして、ツール開発及び活用支援を行っています。またCADデータを使用してプレス部品の成形性等を確認しています。



H20 修士修了
山田典明さん

勤務先：電子・光学部品製造会社
所属部署：知的財産部

開発者の開発成果を特許権という形で権利化することが主な仕事です。先行技術の調査や、開発成果に新規発明として権利化できる部分がないか発明発掘を行っています。また、拒絶理由、OA等の対応も行っています。



H22 卒業
久保有希さん

勤務先：住宅設備機器製造会社
所属部署：営業部直需営業課

洗面化粧台や衛生陶器などセラミック製品を中心とした住宅設備機器を製造・販売する会社に勤務し、OEM製品事業(相手先ブランド製造事業)に携わっています。「人にやさしい快適な生活環境づくり」に貢献するため、毎日頑張っています。



H22 修士修了
野中健太郎さん

勤務先：電気・電子製品製造会社
所属部署：ライティングデバイス事業部開発部

窒化物LEDの高性能化・新規用途に向けた開発に携わっています。LED結晶の特性解析やデバイス構造の最適化を業務にしていますが、量産技術や商材管理などメーカーならではの幅広い知識を習得できるよう、日々努めています。

主要就職先

学科卒(学士)および大学院卒(修士)

※アイウエオ順 ※青字は3名以上 ※下線は大学院卒のみ

愛三工業(株)、アイシン・ユーアイ(株)、アイシン・エイダブリュ(株)、アイシン化工(株)、アイシン機工(株)、アイシン辰栄(株)、アイシン精機(株)、アイシン高丘(株)、愛知製鋼(株)、愛知時計電機(株)、(株)青山製作所、朝日インテック(株)、旭精機工業(株)、旭有機材工業(株)、アスモ(株)、(株)アルパコ、アンデン(株)、(株)LIXIL、イビデン(株)、ウシオ電機(株)、(株)エクセディン、エステー・エルシーアイ(株)、エナジーサポート(株)、NECディスプレイソリューション(株)、NECライティング(株)、(株)F.T.S、オークマ(株)、岡谷鋼機(株)、(株)オテックス、兼房(株)、(株)河合楽器製作所、河村電器産業(株)、北川工業(株)、岐阜プラスチック工業(株)、京セラ(株)、京セラケンセキ(株)、共和レーザー(株)、キョーラク(株)、ケーヒン(株)、興和(株)、(株)興和工業所、小島プレス工業(株)、コバライトマテリアル(株)、(株)三栄水栓製作所、三機工業(株)、サンケン電気(株)、(株)三五、三甲(株)、(株)GSユアサ、CKD(株)、(株)シーテック、(株)ジェイ・エム・エス、(株)ジェイテクト、JR東海旅客鉄道(株)、JR東日本旅客鉄道(株)、シャープ(株)、ジャニス工業(株)、シロキ工業(株)、新電元工業(株)、新東工業(株)、スズキ(株)、スタンレー電気(株)、住友精化(株)、住友電装(株)、住友ナコマテリアルハンドリング(株)、ソニー・エムシーエス(株)、(株)ソミック石川、大同特殊鋼(株)、大同メタル工業(株)、大平洋工業(株)、大豊工業(株)、中央発條(株)、中部電力(株)、津田工業(株)、(株)植屋、(株)ティー・アイ・ピー・シー、デンソーテクノ(株)、東海ゴム工業(株)、東海薬工(株)、(株)東海理化電機製作所、東京エレクトロニクス(株)、(株)東郷製作所、(株)東芝、東芝ライテック(株)、東明エンジニアリング(株)、トエネック(株)、豊田印刷(株)、豊田合成(株)、トヨタ自動車(株)、トヨタ車体(株)、トヨタ車体精工(株)、トヨタテクニカルデベロップメント(株)、豊田鉄工(株)、トヨタ紡織(株)、豊田機工(株)、トリニティー工業(株)、名古屋電気工業(株)、(株)日伝、日機装(株)、日鉄住金鋼板(株)、日東電工(株)、日本圧着端子製造(株)、日本ガイシ(株)、日本耐環境工業(株)、(株)日本テクニード、日本電産(株)、日本電子(株)、日本トムソン(株)、(株)リクテカンパニーリミテッド、パイオニア(株)、(株)パフパーロー、パナソニック(株)、(株)浜名湖電装、浜松フォトニクス(株)、林テレンプ(株)、(株)ハロマ、菱電工機エンジニアリング(株)、日立オムロンターミナルソリューションズ(株)、(株)日立超LSIシステムズ、(株)フジカイ、富士精工(株)、富士通VLSI(株)、フタバ産業(株)、フタバ工業(株)、古河AS(株)、古河機械金属(株)、豊生ブレーキ工業(株)、豊和工業(株)、豊和繊維工業(株)、ホーユー(株)、ホンザキ電機(株)、HOYA(株)、本田技研工業(株)、(株)マキタ、(株)松尾製作所、(株)マルワ、三菱自動車エンジニアリング(株)、三菱製鋼(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、美濃工業(株)、(株)メイドー、名菱テクニカ(株)、(株)森精機製作所、矢崎総業(株)、リコーエレメックス(株)、リンナイ(株)、公務員・団体職員、中学校・高校教員、大学教員、国立研究所



材料機能工学科の学士課程プログラムは、
2010年に日本技術者教育認定制度の
認定を受けて以降、
現在も継続認定されています。

■日本技術者教育認定制度とは

大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを外部機関が公平に評価し、評価水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定 (Professional Accreditation) 制度です。JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education:技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う団体) によって認定されたプログラムの修了生は、国家資格である技術士の第一次試験が免除されるなど、制度の評価性は広く認められています。



<http://wwwrz.meijo-u.ac.jp/>



青色LEDを使用した時計台

名城大学 理工学部
材料機能工学科
〒468-8502
名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地
TEL (052) 832-1151(代)
FAX (052) 832-1170
<http://wwwrz.meijo-u.ac.jp/>